

平成24年6月8日
横浜信用金庫

平成23年度決算概況について

横浜信用金庫（横浜市中区尾上町 2-16-1 理事長 斎藤 寿臣）の平成23年度決算が確定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 本決算のポイント

- (1) 61期連続の黒字決算
- (2) 当期純利益前年度比16.80%の増益

2. 業容について

預金（譲渡性預金を含む）の期中平均残高は、前年度比3.47%増加し1兆4,924億円、期末残高は同4.42%増加し1兆5,271億円となりました。

3. 損益について

経常収益は、前年度比3億32百万円減少し297億53百万円となりました。貸出金の利回り低下により貸出金利息が減少したことが主な要因です。

経常費用は、前年度比61百万円減少し256億14百万円となりました。預金利回りの低下による預金利息の減少と経費の減少が主な要因です。この結果、経常利益は前年度比2億70百万円減少し41億39百万円となりました。

また、本業の収益力を表す業務純益（一般貸倒引当金繰入後）は、前年度比1億37百万円増加し、69億23百万円となりました。

当期純利益は、前年度比3億53百万円増加し24億58百万円となりました。

これにより、昭和26年に信用金庫に組織変更して以来、61期連続の黒字決算となりました。

4. 諸比率について

預金貸出金利鞘は、前年度比0.01ポイント増加し0.80%となりました。貸出金利回りは前年度比0.08ポイント低下し2.22%、預金利回りが同0.03ポイント低下し0.10%となりました。経費を含めた預金原価率は、預金利回りが低下したこと及び経費率が低下したことにより、前年度比0.09ポイント低下し1.41%となりました。

総資金利鞘は、前年度比ほぼ横ばいの0.21%となりました。資金運用利回りは前年度比0.10ポイント低下し1.63%となりましたが、資金調達原価率も1.42%と同0.09ポイント低下しました。

自己資本比率は、前年度比0.29ポイント上昇し11.99%となりました。国内基準（4%）はもとより国際基準（8%）も上回る高い水準を維持しています。

5. 不良債権について

金融再生法に基づく不良債権比率は、前年度比0.14ポイント低下し6.64%となりました。

なお、不良債権に対する担保・保証・貸倒引当金等による保全率は94%と高い水準を維持しています。

6. 平成24年度計画について

平成24年度の利益計画は次のとおりです。

(1) 業務純益	56億49百万円	(前年度比	△12億74百万円)
(2) 経常利益	31億60百万円	("	△9億79百万円)
(3) 当期純利益	20億79百万円	("	△3億79百万円)

以 上

